

最後に、本文を記すにあたり前記材料W.G.の研究の一部を参考にさせていただきました。御協力下さった方々に感謝致します。

文 献

- 1) 制御圧延技術の基礎とその展開 (鉄鋼基礎共同研究会高温変形部会シンポジウムテキスト), (1980)

- 2) I. TAMURA: Proc. of Inter. Conf. on Steel Rolling, Tokyo, (1980), p. 59
- 3) F. B. PICKERING: Physical Metallurgy and the Design of Steels, (1978) [Appl. Sci. Publ. Ltd.]
- 4) Strong Tough Structural Steel (ISI Publication 104), (1967) [ISI]
- 5) 鉄と鋼, 58 (1972) 13

統 計

1980年の内外鉄鋼業 (その 1—世界)

日本鉄鋼連盟によれば、1980年の世界粗鋼生産 (一部推定) は、中国、ブラジル、韓国など一部の中堅製鉄国は好調であったが、欧米主要製鉄国の極端な不振およびソ連、日本の停滞を反映して前年比4.3%減の7億1770万tであった。とりわけアメリカが急減した結果、日本が史上初めてソ連に次いで粗鋼生産第2位の地位につくことになった。

国別に見ると、世界第1位のソ連の粗鋼生産は前年並みと推定され、2年連続して不調に終わった。アメリカは一般の経済情勢が悪化する中で主要な需要先である自動車産業が極度の不振に陥るなどにより、石油

危機後の75年の落ち込みにも相当する前年比18.4%減となった。ヨーロッパ共同体9カ国の生産もイタリアを除いていずれも減少したが、とくにイギリスは年初の鉄鋼ストライキの影響で前年に比べて半減した。

一方、1980年の世界鋼材輸出量合計は、1億3900万t程度と推定され、79年度実績1億4000万tをわずかに下回った。ECの域内取引を除く世界合計は1億700万tで前年の3%減、またECの域外向け輸出は2850万t (前年比10%減)、日本は2940万t (4%減)、世界流通に占めるシェアはそれぞれ20.5%、21.2%であった。しかし、韓国は420万t (33%増)、アメリカ400万t (50%増)、カナダ320万t (21%増) など、大幅な増加が目立っている。とくに韓国は東南アジア、日本、中近東、西欧向けに大幅に増加し、仕向先の多様化が進んでいる。

(鉄鋼界報, No. 1226, 昭 56.2.11)

1980年世界の粗鋼生産
(単位: 1000 t, %)

順位	国名	数量	増減率
1	ソ連	149,100	0.0
2	日本	111,406	△ 0.3
3	アメリカ	100,900 (103,000)	△ 18.4 △ 18.3
	EC (9) 計	127,760	△ 8.9
4	西ドイツ	43,839	△ 4.8
5	中国	37,040	7.4
6	イタリア	26,542	9.5
7	フランス	23,162	△ 0.8
8	ポーランド	18,000	△ 6.3
9	カナダ	15,890	△ 1.2
10	ブラジル	15,311	11.1
11	チェコスロバキア	14,800	△ 0.1
12	ルーマニア	13,000	0.7
13	スペイン	12,530	3.4
14	ベルギー	12,318	△ 8.4
15	イギリス	11,216	△ 47.8
16	インド	9,431	△ 6.9
17	南アフリカ (共)	8,974	1.1
18	韓国	8,600	13.0
19	オーストラリア	7,594	△ 6.5
20	東ドイツ	7,250	4.1
33カ国合計 (200万t以上)		702,580	△ 4.5
その他諸国		15,100	6.3
世界合計		717,700	△ 4.3

(注) アメリカの()内の数字は鋳鋼専門家の生産を含む数量で、33カ国合計および世界合計はこの数値に基づいて計算されている

出所: 各国公表統計による。1938年は速報値または推計値

